

中小企業動向トピックス

中小企業の景況は、緩やかに回復している

「全国中小企業動向調査・中小企業編」結果概要

〔2017年4－6月期実績、7－9月期および10－12月期見通し〕

当公庫ではお取引先のご協力を得て、2017年6月に「全国中小企業動向調査・中小企業編」を実施しました（調査対象13,878社、有効回答企業数7,034社、回答率50.7%）。

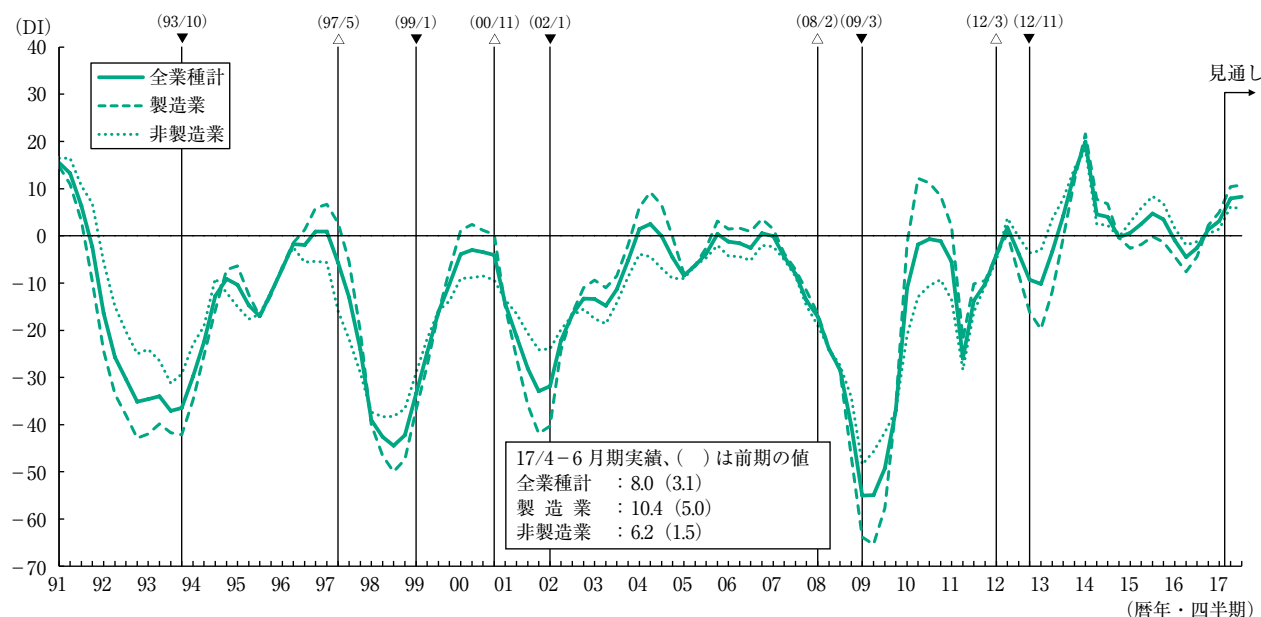
今期の中小企業の業況判断DIは、前期から上昇し8.0となりました。上昇は4期連続です。来期も上昇が続き、プラス幅を拡大する見通しです。中小企業の景況は、緩やかに回復しています。

業況判断DIは4期連続の上昇

今期（2017年4－6月期）の業況判断DI（全業種計）は、前期（2017年1－3月期）から4.9ポイント上昇し、8.0となりました（図表－1）。上昇は4期連続であり、前回調査の見通しである5.1も上回っています。業種別にみると、製造業は前期から5.4ポイント上昇の10.4、非製造業は4.7ポイント上昇の6.2となりました。製造業の方が上昇幅が大きく、DIの水準も高くなっています。

先行きをみると、来期（2017年7－9月期）は上昇が続き8.3となり、来々期（2017年10－12月期）はやや低下し、6.3となる見込みです。足元では上昇が続いており、先行きも過去の局面と比較して高い水準を維持する見通しです。中小企業の景況は、緩やかに回復しています。

図表－1 業況判断DIの推移（前年同期比で「好転」－「悪化」企業割合、季節調整値）

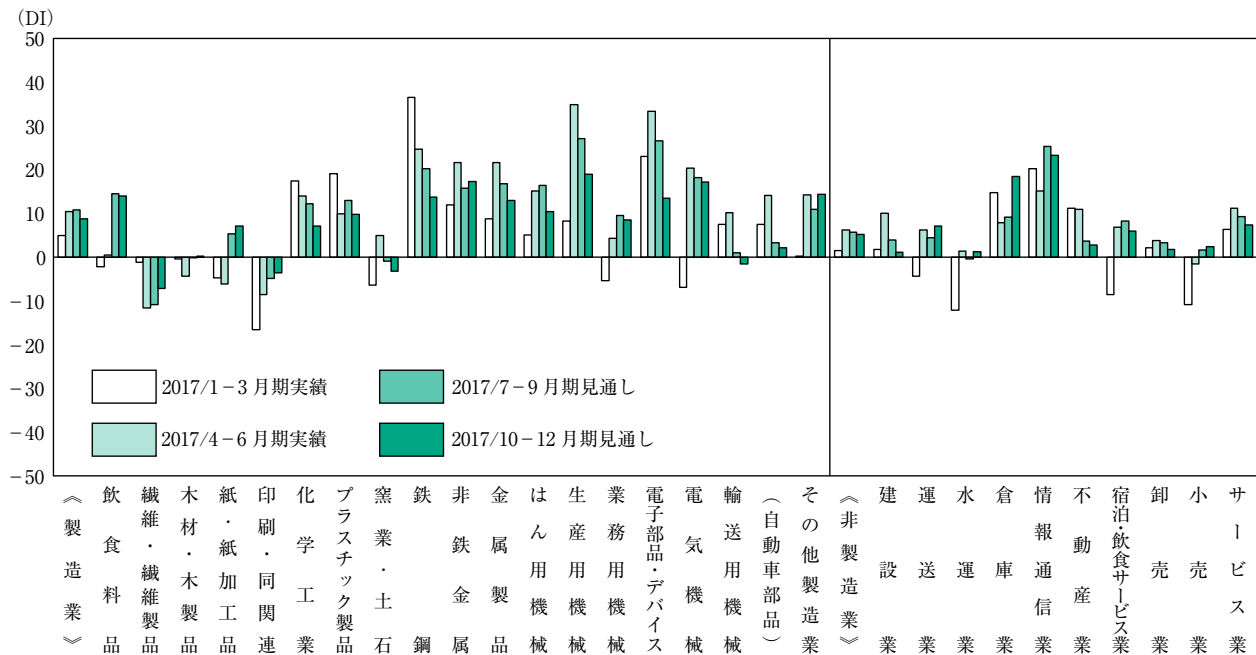


機械関連業種を中心に好調を維持

今期の業況判断 DI を業種別にみると、製造業でははん用機械、生産用機械、電子部品・デバイス、輸送用機械といった機械関連業種や、それらに部品を供給する非鉄金属、金属製品等が上昇しました（図表－2）。海外経済の回復を背景に輸出が好調であることなどが、これらの業種の景況感を押し上げています。

非製造業では、建設業が公共工事の持ち直しなどを背景に上昇しています。また、インバウンドの増加などから宿泊・飲食サービス業が上昇しています。

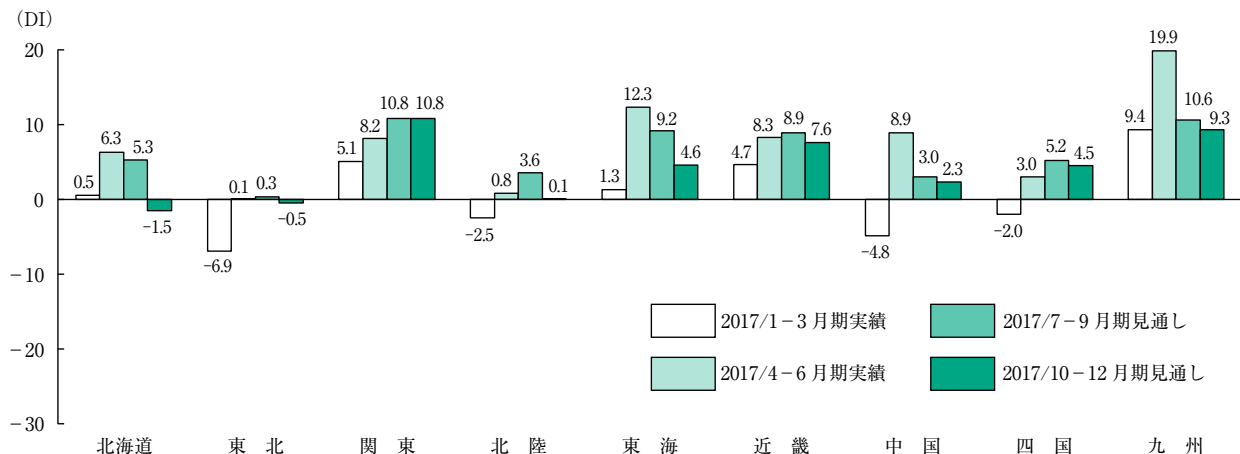
図表－2 業種別業況判断 DI の推移（前年同期比で「好転」－「悪化」企業割合、季節調整値）



全地域でプラス水準

業況判断 DI を地域別にみると、今期は9地域すべてでプラス水準となりました（図表－3）。来期は東北、関東、北陸、近畿、四国の5地域でプラス幅を拡大する見通しです。

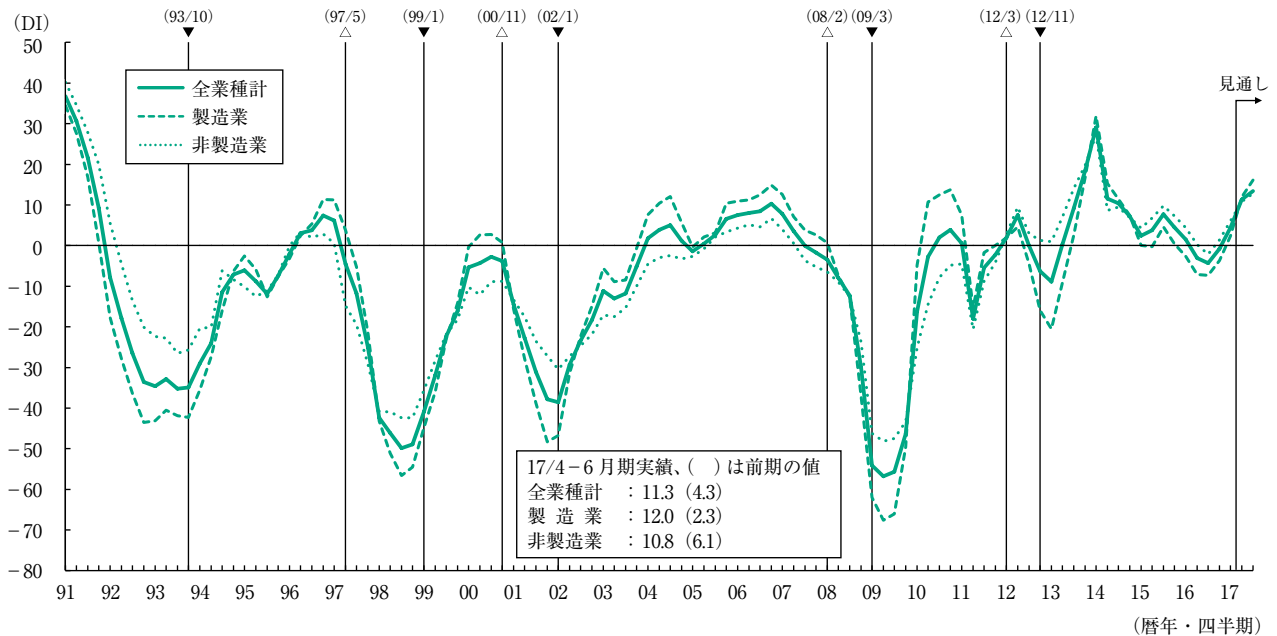
図表－3 地域別業況判断 DI の推移（前年同期比で「好転」－「悪化」企業割合、季節調整値）



売上DIは3期連続の上昇

今期の売上DI（全業種計）は、前期から7.0ポイント上昇し、11.3となりました（図表-4）。上昇は3期連続です。先行きをみると、来期は上昇して13.4になり、来々期は14.0になる見通しです。

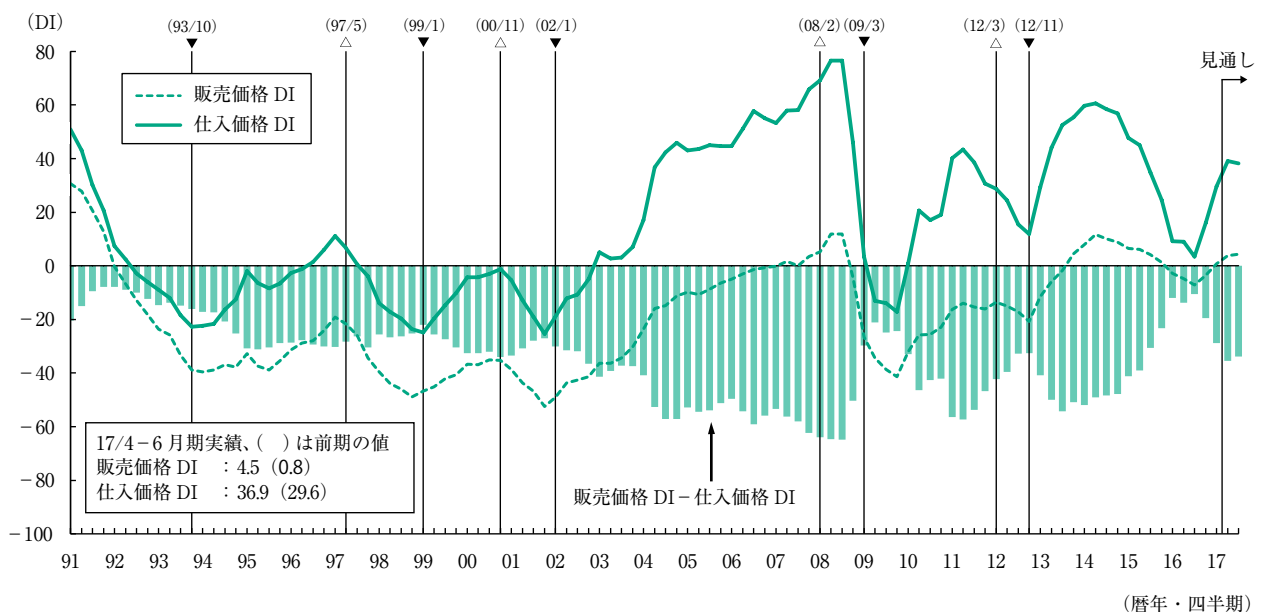
図表-4 売上DIの推移（前年同期比で「増加」－「減少」企業割合、季節調整値）



販売価格DI、仕入価格DIともに3期連続の上昇

今期の価格関連DI（全業種計）についてみると、販売価格DIは前期から3.7ポイント上昇し、4.5となりました（図表-5）。仕入価格DIは7.3ポイント上昇し、36.9となっています。来期は、販売価格DI、仕入価格DIともに上昇する見通しです。

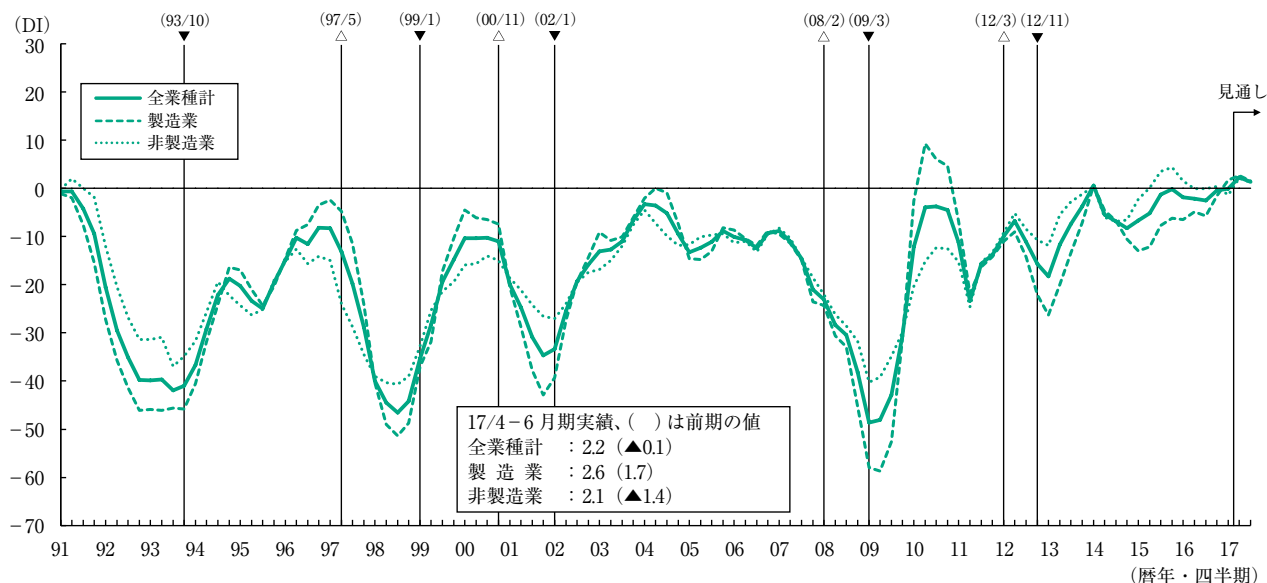
図表-5 販売価格DIと仕入価格DIの推移（いずれも前年同期比で「上昇」－「低下」企業割合、原数値）



純益率 DI は 3 期連続の上昇

今期の純益率 DI（全業種計）は前期から 2.3 ポイント上昇し、2.2 となりました（図表-6）。上昇は 3 期連続です。仕入価格の上昇もあり、売上 DI と比較するとやや弱い伸びにとどまっています。

図表-6 純益率 DI の推移（前年同期比で「増加」－「減少」企業割合、季節調整値）

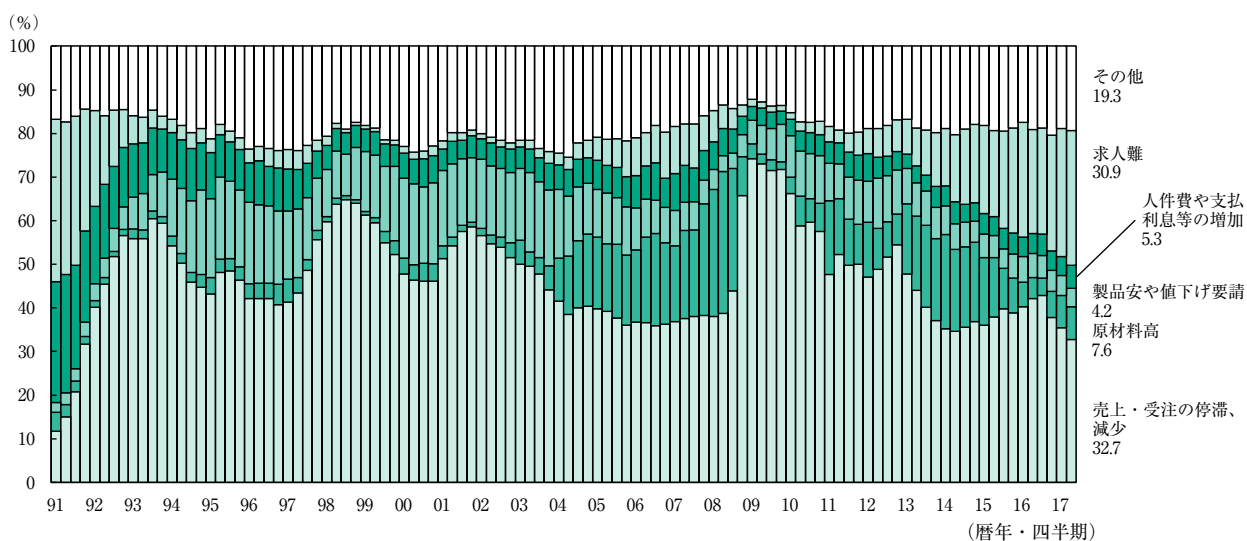


「求人難」の割合が上昇

当面の経営上の問題点をみると、「求人難」は 1.6 ポイント上昇し 30.9% となりました（図表-7）。また「原材料高」は 0.3 ポイント上昇し 7.6% となりました。中小企業の景況感は回復が続いていますが、人手不足や原材料高といった問題は深刻化しています。先行きには注意が必要です。

（山口 洋平）

図表-7 当面の経営上の問題点



「中小企業動向トピックス」に関するご意見・ご要望等ございましたら、本支店窓口までお問い合わせください。

発行：日本政策金融公庫 総合研究所 ～ホームページ <https://www.jfc.go.jp/> ～